文部科学省研究開発指定校事業の取組を発信するニュースレター

2022.05

研究開発だより Vol. 1

新領域「光輝（かがやき）」で資質・能力を働かせ，輝いている子どもたちの様子をお届けいたします！

新領域「光輝（かがやき）」意義と目的

広島大学附属三原学校園長　柳澤 浩哉

現代社会はめまぐるしく変化しています。子どもたちが社会人になる10年後，15年後，社会はどんな姿になるのでしょうか。未来の仕事についてこんな予想があります。現在幼稚園に通っている子どもたちが就職する時，彼ら彼女たちの4割は現在存在しない仕事に就くだろう。言葉を替えれば，現在の仕事の４割が15年後には消えてしまうという予想です。ちょっと恐ろしくなりますが，消えていく仕事については既にいろいろ言われています。税理士や弁理士などのいわゆる「士業」の仕事がAIに奪われる，AIとネット銀行によって市中銀行が縮小する，自動運転によってドライバーがいなくなる・・・。では，それらに替わって登場するのは，どんな仕事でしょう。それが分かれば，子どもたちに今からその準備をさせることができるかもしれません。でも，考えてみてください。私たちの生活でスマホがこれほど重要な存在になることを１５年前に予想できた人がいたでしょうか。当時は二つ折りガラケーの時代で，まだスマホという言葉もありませんでした。未来を具体的に予想するのは，それくらい難しいことなのです。

さて，ここからが本題です。子どもたちは予想困難な未来を生きなくてはなりません。不確実な未来を生き抜くために必要な力は，どんなものになるでしょう。実は，心理学を中心にこの力についての研究が進められています。それは例えば，柔軟な思考力，ねばり強さ，感情をコントロールできる力，楽観的に考える力，自尊感情といったものだと考えられています。

そして，これらの能力は**レジリエンス**という言葉でまとめられています。ただし，レジリエンスは未来のための能力として研究されたものではなく，心理学のストレス研究から生まれた言葉です。ストレス耐性の個人差を研究する中で，ストレスに負けない人には，いくつかの共通点のあることが明らかになりました。

先ほど挙げた，柔軟な思考力，ねばり強さ等は，いずれもストレスに強い人が共通して持っているものです。ここには能力と思考傾向の両方が並んでいますが，これらを一言にまとめた言葉がレジリエンスなのです。

レジリエンスは目の前のストレスを乗り越える力であるとともに，将来のストレスに備える力でもあります。どちらの意味でも教育的な意義が大きいので，学校教育の中でレジリエンスを育成するべきだという主張が以前からありました。しかし，レジリエンスを育成する教育が難しいため，その実践報告はわずかしかありません。

このようなレジリエンス育成に学校全体で取り組んでいるのが，附属三原学校園の「光輝（かがやき）」です。レジリエンス教育に学校全体で取り組んだ例は他になく，本学校園は文部科学省から研究開発指定校に選ばれました。今後の学習指導要領編纂の際には三原附属の研究報告が参照されます。

「光輝」は「躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識」の三つを核としています。レジリエンスと「躍動する感性」「横断的な知識」が並んでいるのは，学校教育に求められる成果とレジリエンスのバランスを考えた結果です。そして，この目標を実現するために，総合の時間・道徳・特活，さらに各科目の一部（4分の１以内）をあてて年間120時間から140時間を「光輝」の時間としています。教科のない幼稚園でも「光輝視点の保育」を行っています。

「光輝」は今年度が研究最終年にあたり，４年間の教育実践の成果を研究報告書として出版します。附属三原学校園の教員は熱意と使命感をもって，広島大学と連携しながら教員間の協議を重ね，教育実践を進めてきました。「光輝」が子どもたちの将来を見据えた教育実践であることをご理解いただければ幸いです。

広島大学附属三原学校園（幼稚園・小学校・中学校）
〒723-0004 広島県三原市館町二丁目6番1号
HP:https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara

HPも今すぐチェック！